NODA・MAP 第23回公演

# 『Q』: A Night At The Kabuki

## Inspired by A Night At The Opera

作・演出:野田秀樹　音楽:QUEEN

インタビュー　上川隆也

# 自らの“感嘆”を何倍にもして観客に届けたい!

**NODA・MAPの新作『Q』: A Night At The Kabuki。**
**本作品で野田作品に初出演する上川隆也に、その魅力や現在の心境を聞いた。**

“アルバム『オペラ座の夜』を日本で演劇化したい”というクイーン・サイドからのオファーと、野田秀樹が以前から温めていた“『ロミオとジュリエット』の後日譚を書いてみたい”というアイディア。この2つが結実して生まれたのが、上川にとって初の野田作品となる『Q』だ。稽古は8月末にスタートした。

**上川**　「いつの日か参加できたらと思っていたNODA・MAP。毎日が新鮮で、新人になった気分です(笑)。野田さんの作品は劇団夢の遊眠社の頃から拝見していましたし、僕自身も劇団(演劇集団キャラメルボックス)出身で、舞台はそれなりにやってきたつもりですが、野田さんのような舞台作りの現場は未体験の領域。なるほど、こういう風にして形作っていくのかという驚きが随所にあって、楽しくて仕方ないです」

そう語る上川が演じるのは、“それからのロミオ”。12世紀末の日本を舞台に、もしもロミオとジュリエットが死んでいなかったら…?という物語が、散りばめられた原作の名台詞とともに繰り広げられる。しかもそれは、さらにもう一つのモチーフへと繋がっていく。

**上川**　「最初に台本を読んだ時の感嘆はトンデモないものでした。全くイメージが違う2つのモチーフが見事に繋がって、5日間の命懸けの恋がまた違った物語へと綴られていく。そのことがたまらなく刺激的で、驚きを隠せませんでした。やはり野田さんは、言葉の紐付け、関連付けの天才だと。きっとご覧になる方も、同様の驚きと、理屈抜きで魂が震えるような観後感に見舞われるのではないかと思います」

一方で、脚本を読んだだけでは、うまくイメージできなかった部分もあったという。

**上川**　「野田さんの途方もないイマジネーションから紡ぎ出された文章表現や情景描写に、僕のような凡人の頭が追いつけないといいますか、たとえば、台本の中では当たり前のことのように、ト書き1行で情景が変わっていったりするんですが、その1行をどう具現化するのか、想像がつかないところがあるんです。稽古場で、それが実際に形になっていくのを見ると、ああ、野田さんはこういうことを考えていらしたかと、思わず溜息がこぼれます。作品を立ち上げていく過程をつぶさに目の当たりにできて、今とても得をしている気分です。この贅沢な時間にどっぷりと浸かって、稀有な体験を楽しみたいと思います」

ちなみに“それからのジュリエット”を演じるのは松たか子、若かりし頃のジュリエットとロミオを演じるのは、広瀬すずと志尊淳だ。

**上川**　「松さんは懐の深い方。僕があれこれ試みても、それを全て受け止めてその場に即したことをしてくださるので、やはりすごい方だと感じています。二人の距離が隔たっている時の佇まいがまた素敵で、そこは演じながらとても影響を受ける部分です。志尊くんといかに表裏になれるかも鍵かなと思っています。ほぼ30歳違う彼とのギャップを利用して楽しみつつ、志尊くんの持っている瑞々しさを、形はどうであれ僕自身も吸収しながらやっていけたら」

奇しくも上川は今年、演劇集団キャラメルボックスに入団して俳優を始めて30年。稽古場で生き生きと動き、「初心に帰ったような気がする」と話すその充実した面持ちを見ると、まさに機が熟し、このタイミングで出合うべくして本作品と出合ったとしか思えない。

**上川**　「僕自身、今回の役柄や、野田さんがこの作品で描きたいとおっしゃっていたことに、強くシンパシーを感じています。皆で形を整えていって、僕が台本を最初に読んだ時に感じた感嘆を何倍にもして客席の皆様にお届けしたいと思います」

取材・文:岡崎香(演劇ライター)
写真:渡部孝弘

**10月8日(火)〜15日(火)/**
**11月9日(土)〜12月11日(水)**
**プレイハウス**
作・演出:野田秀樹　音楽:QUEEN
出演:松たか子　上川隆也　広瀬すず　志尊淳
橋本さとし　小松和重　伊勢佳世　羽野晶紀　野田秀樹　竹中直人

詳細はP13・16・17へ

東京芸術祭 2019 Tokyo Festival 2019

**大阪、北九州 公演あり**

東京芸術祭2019
# フェスティバル/トーキョー19

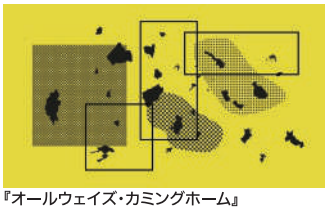
FESTIVAL / TOKYO

## 異なる文化、歴史、時間を生きる、多様な人々に出会う37日間

**「東京」を舞台に、都市の中での舞台芸術の可能性を追求するフェスティバル/トーキョー(F/T)。12回目となる今年は「からだの速度で」をテーマに、舞台作品からアートプロジェクトまで、多彩なプログラムを展開する。**

### ポーランドの若手演出家と探求する「ユートピア」

2009年春の初開催からフェスティバル/トーキョーのメイン会場のひとつとなってきた東京芸術劇場では、3つの趣の異なる作品が上演される。シアターイーストを会場とする『オールウェイズ・カミングホーム』は、『ゲド戦記』でも知られるアーシュラ・K・ル=グウィンが同名小説で描いた人類の末裔の文化と生活を、映像、音、美術、ダンスなど、さまざまなメディアを用いて立体化するもの。科学技術と距離をおき、自然との絆を保つ未来の人々の生きざまを、ポーランドの若手演出家マグダ・シュペフトと俳優たち、ドラマトゥルク、ダンサー、映像作家、美術家、作曲家、振付家など、多彩な顔ぶれで構成されたチームはどう捉え、具現化してみせるのか。日本とポーランド、両国でのリサーチを重ねて立ち上げられる風景に是非立ち会ってみたい。



『オールウェイズ・カミングホーム』
"Always Coming Home" by Ursula K. Le Guin
Used by permission of Curtis Brown, Ltd.
Copyright © 1985
All Rights reserved.

### 中国、ラオスの最新舞台で、異なるアジアを知る

中国・杭州を拠点に活躍する香料SPICEは、東洋的感性と西洋文化を融合させた音楽性、哲学的な歌詞で注目を集めるサイケデリック・エレクトリックグループ。これまでにもインスタレーションやパフォーマンス作品を発表してきた彼らが、シアターウエストで世界初演するのは、自作のSF漫画『New Jungle』の舞台版だ。音と映像、パフォーマンスが織りなす新感覚のステージは、現代中国カルチャーの先端を垣間見せる、刺激的なものとなりそうだ。

また、国や分野の境界が融解するアジアの文化状況に着目するシリーズ「トランスフィールド from アジア」では、ラオスのファンラオ・ダンスカンパニーが、同国南部の文化を伝える男性デュエット『Bamboo Talk(バンブー・トーク)』、現代ラオス女性のリアルをテーマとした『PhuYing(プニン)』の2作品を上演する。伝統舞踊とヒップホップのテクニックを共存させる彼らの作品は、ラオスのコンテンポラリー・ダンスを牽引するもの。急速な経済成長と近代化の渦中にある人々の、ありのままの感性がそこには表れるだろう。

情報化、効率化が進む現代社会。だが、人が感じ、考え、行動するスピードは一様ではない。豊島区内の商店街の歴史と現在、未来を表現する「山車」によるパフォーマンス『移動祝祭商店街』、インドネシア・ジョグジャカルタの屋台型商店を東京に持ち込む北澤潤『NOWHERE OASIS』など、ここに紹介した劇場作品に限らず、F/T19には、異なる文化や歴史、環境の中で、それぞれの時間を生きる者同士が出会う場がいくつも仕掛けられている。その出会いはきっと、私たちの暮らし、生のあり方に、一時立ち止まり、向き合うきっかけをもたらすだろう。

トランスフィールド from アジア
ファンラオ・ダンスカンパニー『Bamboo Talk(バンブートーク)』『PhuYing(プニン)』

香料SPICE『新丛林 ニュー・ジャングル』

---

**人と都市から始まる舞台芸術祭**
**フェスティバル/トーキョー19**
**10月5日(土)〜11月10日(日)**
**東京芸術劇場、あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)、シアターグリーン、トランパル大塚、豊島区内商店街** ほか

■ **10月5日(土)・6日(日) オープニング・プログラム『移動祝祭商店街』**
**豊島区内商店街(池袋本町エリア、大塚エリア、南長崎エリア)、トランパル大塚**
パフォーマンスデザイン:セノ派(舞台美術家コレクティブ)
参加無料・予約不要

■ **10月18日(金)〜20日(日) 香料SPICE『新丛林 ニュー・ジャングル』**
**シアターウエスト**
コンセプト・演出・出演:香料SPICE

■ **10月25日(金)〜27日(日)**
**トランスフィールド from アジア**
**ファンラオ・ダンスカンパニー『Bamboo Talk(バンブートーク)』『PhuYing(プニン)』**
**シアターイースト**
振付:ウンラー・パーウドム、ヌーナファ・ソイダラ

■ **11月8日(金)〜10日(日)『オールウェイズ・カミングホーム』**
**シアターイースト**
原案:アーシュラ・K・ル=グウィン　演出:マグダ・シュペフト

■ **10月下旬〜11月中旬『NOWHERE OASIS(ノーウェア・オアシス)』**
**劇場前広場ほか池袋駅周辺**
参加無料・予約不要

詳細はP13・14・15へ

ほか、多数ラインナップ

【チケット取扱い】F/Tチケットセンター TEL:03-5961-5209 https://www.festival-tokyo.jp/19/ticket.html
東京芸術劇場ボックスオフィス TEL:0570-010-296 http://www.geigeki.jp/t/
【お問合せ】フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局 TEL:03-5961-5202 https://www.festival-tokyo.jp

東京芸術祭2019 Tokyo Festival 2019

「紫気東来-ビッグ・ナッシング」 ©Park Suhwan

「ハウリング・ガールズ」 ©Zan Wimberley

「可能性は風景の前で姿を消す」 ©Claudia Pajewski

「たびたび罪を犯しました」 ©Dennis Yulov

「汝、愛せよ」 ©Marcuse Xaverius

「ソコナイ図」 ©TAKE nob

# 東京芸術祭ワールドコンペティション2019

## 2030年代のトップアーティストたちが世界から芸劇に集結!

### ワールドコンペティションディレクター横山義志からのメッセージ

**つくり手と観客が共に舞台芸術の新たな価値を創出する場に、ぜひご参加ください!**

東京芸術劇場にはいつも世界から一流の舞台が集まっていますが、“一流”ってなんだろう、って思ったことはないでしょうか?誰が、どんな基準でそれを決めているのでしょうか?

### “世界基準”が変わっていく瞬間に立ち合う

ここ150年程、日本の舞台芸術は“一流”の基準を主にヨーロッパに求めてきました。そんな状況も、世界のパワーバランスが大きく変動している「アジアの時代」には、大きく変わっていくことでしょう。でも、経済や政治といった“パワー”が芸術の価値観を決めていくというのもちょっと残念な気がします。それなら私たち自身で次の時代の“世界基準”をつくっていけないか、というのが、「東京芸術祭ワールドコンペティション」を構想したときに考えていたことでした。

「私たち」といってもこんな時代なので、もちろん日本にいる人だけで次の時代の価値観をつくれるわけではありません。「東京芸術祭ワールドコンペティション」では、2030年代に活躍するであろうアーティストたちが、アジア、オセアニア、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ、そして日本から東京芸術劇場に集結し、作品を発表します。アーティストを選んだのは、フランスのアヴィニョン演劇祭をはじめ、各地域で国際的なフェスティバルのプログラムを組んできたプロデューサーたちです。今まさに世界の舞台芸術界の価値観をつくっている方々、といってもいいでしょう。

このプロデューサーたち、つまり推薦人の方々には、各地域の状況を踏まえ、作品を紹介していただきます。アジアからはヴィジュアルアーティストによる幻想的な影絵芝居、オセアニアからは悲痛な経験を語る言葉のないオペラ、ヨーロッパからは皮肉と深い思索を込めて現代ヨーロッパを俯瞰するパフォーマンス、アフリカからは動物の仮面を使ったフィジカルシアター、アメリカからはブラックユーモアたっぷりの会話劇、そして日本からは大阪弁による不思議な「悲劇」と、バリエーションに富んだ舞台が選ばれました。

### 「アーティスト審査員」と「批評家審査員」

作品の審査には、三種類の審査員があたります。まず、各地域で舞台芸術の価値観を更新してきたアーティストたちに「アーティスト審査員」として参加してもらいます。審査員長はフランス・ナンシー国際演劇祭の創始者として寺山修司や鈴木忠志を欧州に紹介し、文化大臣としてフランスの舞台芸術を躍進させたジャック・ラングさん。副審査員長にはジャンルを越えた舞台作品を発表しつづける夏木マリさんをお迎えし、アジアからは平昌オリンピックの芸術監督も務めたヤン・ジョンウンさん、ヨーロッパからは東京芸術祭で『暴力の歴史』を発表するトーマス・オスターマイアーさんにご参加いただきます。

また、歌舞伎研究のビュールク トーヴェさんなど、各地域出身で舞台芸術に造詣が深く、日本語を話す方々に「批評家審査員」として日本語で議論していただきます。

### あなたの視線が、次世代の価値観をつくっていく

そして観客のみなさんには、作品をご覧になって、「観客賞」を選出していただきます。みなさんの投票、そしてみなさんの視線や拍手や終演後のおしゃべりが、これからの世界の価値観をかたちづくっていきます。

アーティスト、推薦人、審査員と、夢のようなメンバーがそろって、私も今からそわそわしています。この秋、東京芸術劇場で、次世代の価値観を一緒に夢見てみませんか?

**10月29日(火)〜11月4日(月・休)** 詳細はP14・15へ
**プレイハウス、シアターイースト、シアターウエスト ほか**
参加(上演)作品:全6作品(アジア、オセアニア、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ、日本)
10月29日(火):推薦人プレゼンテーション　10月30日(水)・31日(木):推薦人トーク
11月4日(月・休):審査会、授賞式あり(入場無料・予約不要・先着順)

東京芸術祭ワールドコンペティション2019特設サイト
https://tokyo-festival.jp/2019/world-competition